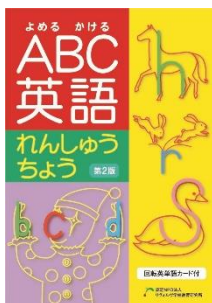


ABC英語れんしゅうちょう 第2版 利用の手引

Unit 1 Alphabet

シンプルだけに難しいアルファベット。本冊では絵に文字を埋め込んだり、書き順を言葉にしたりなどしています。「目からのヒント」「耳からのヒント」など、それぞれの強みを生かして練習しましょう。



【練習のポイント】

- ① 大文字はアルファベット順に練習します。まずは机の上に指で大きく書くなどしてみましょう。
- ② 何度も書かせると、文字は乱雑になりがちです。少ない回数でもていねいに書くようにしましょう。
- ③ 小文字は大文字とそっくりな文字から練習します。文字枠を参考に、書き位置と文字の大きさに注目させましょう。
- ④ アルファベットには、決まった書き順はありません。基本とともに、書きやすさを大切にしましょう。

【こんなときは】

- * 文字形が覚えられないときは、背中に書いた文字を「あてっこ」してみましょう。最初は数枚のカードの中から正解を選ばせ、慣れてきたら、机の上に指で書いて答えさせるなどしてみましょう。

- * 「c 書いて2階から縦棒」などと言いながら、ザラザラしたものに指で書く練習もしていきましょう。
- * 文字形を思い出せないときは、やはり「c 書いて…」と言って聞かせたり、「ドンドン drum の d」と太鼓を叩く真似をしてみせるなどしましょう。
- * s を鏡文字にしたり b / d を混同する子には「白鳥はどっちを向いていた？」と問いかけたり、表紙のクラウンの真似をしてみせるなどしましょう。

【特に気をつけたい文字】

- * b / d / p / q は書き順で区別するのも有効な方法です。文字枠には、書き始めの点を示しています。
- * h / n / u / r を混同する場合は「horse の h は首を長く」「cup の u を反対にしたら水がこぼれるよ」「rabbit の r はウサギがぴよんぴよん」などとヒントを出しましょう。
- * f / t を混同する場合は「flower の f は花が重いかな」と f の上部の曲がりに注目させましょう。
- * 左右の混同を防ぐため、b / d などの文字は c の部分を非対称にしています。書く練習では厳密に区別させる必要はありません。

【どうしても書けないときは】

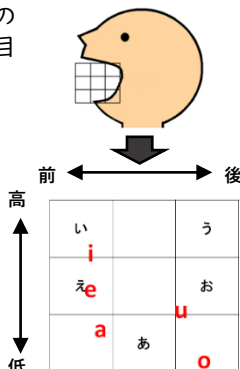
- * Unit 2 / 3 を通して、ゆっくりと身につけていきましょう。単語もまずはキーボード・タイピングで覚えられるようにしましょう。
- * 「書くこと」を極端に苦手とする子は少なくありません。それがもとで、英語そのものを嫌いになってしまうないようにしましょう。

Unit 2 Phonics: 文字音

ひらがなの「ひ」は読みも「hi」ですが、英単語の中の p は「プ」のように発音されます。まずはアルファベットの文字音をしっかり練習しましょう。

【練習のポイント】

- ① 発音のヒントを参考に「p・プ・プ panda」と一文字ずつ練習します。
- ② 言えるようになったら、メトロノームなどでリズムにのせて練習します。
- ③ 唇に薄紙をかざして「パンダ」といっても紙はそのままですが、英語で panda と発音すると紙は大きくふるえます。最初に日本語との音の違いを意識させましょう。
- ④ 一方で、発音にこだわりすぎるのは考えものです。正しい発音を意識することと、実際に発音できるようになるのは別問題です。その子のペースで、その子に合った目標を設定しましょう。
- ⑤ pin / fin の聞き分けに困難を示すような場合は、カタカナ表記も大きなヒントとなります。
- ⑥ 耳よりも目からの情報に強い子もいます。母音字 i / e / a / u / o の音は右図で舌の位置を確認してみましょう。



「日本語で覚えるネイティブの発音」
島岡丘ダイヤモンド社参照

下の図は、上の四角形を拡大したものです。日本語の発音とも比べてみましょう。

Unit 2 Phonics: 音の足し算

フォニックスの基本を押さえれば、多くの語がより簡単に読み書きできるようになります。しかし日本語では「hi」は「ひ」であるため、私たちは次のような「音いん操作（音の足し算・引き算）」を苦手としがちです。

$$h + it = hit \quad \text{train} - t = \text{rain}$$

rain をもとにすれば、train / brain や rail / nail などの読み書きも難しくないように思えますが、英語を苦手とする人の多くがそこに気づかずにいたり、音いん操作で手間取ったりしています。

【読む・練習のポイント】

- ① 「音の足し算」を意識しながら単語を読んで、絵と線でむすびましょう。
- ② わからない単語は後まわしにして、わかる単語から線で結んでいきましょう。例えば weep / sweep があとに残ったときは
 - ・聞き覚えがないかももう一度考える
 - ・単語の音から、どちらが「しくしく泣いている / さっさと掃いている」感じがするかを考える
 などしていきましょう。 * P42 Quiz! を参照
- ③ 線で結んで終わりにせず、何度も繰り返し読んで練習しましょう。

【こんなときは】

- * 何度練習しても nail を「ナイル」と読んだり、n + ai の足し算に苦労しているときは、又 + エイと書き添えてみましょう。

【書く・練習のポイント】

見慣れた漢字を読むときの私たちが細部をよく見ないのと同じように、英単語を読むときにもよく見ずに、絵だけを見て読んでいます。ここでは一文字一文字を確かめながら「読むことを目的とした書く練習」をしましょう。

- ① 文字枠も参考にしながら、まずは単語を声に出して言ってみましょう。
- ② hugなら「h:ハ+u:ア+g:グ」のように、一文字ずつ音を確かめながら、机の上などに指で大きく書いてみましょう。
- ③ 枠の中に、鉛筆で単語を書いてみましょう。語が子音と母音から成り立っていることへの気づきを促すため、母音字 a/i/u/e/o の枠は着色しています。
- ④ 特に間違えやすい b/d/p/q の枠には、書き始めの点が表示されています。
- ⑤ 文字の大きさや書く場所に気をつけると、run を *lun とする間違いも少なくなります。文字枠は視覚記憶を強化し、r と l の音の区別に困難を示す子の助けにもなります。

【こんなときは】

- * train を *tain と書くなど脱字が目立つときは「少し短くない？」と声をかけた上で、書いた単語を読み返させ、自ら脱字に気づかせるようにします。
- * 脱字や文字と文字の間が空きすぎたりするときは、音と書いている文字がよくつながっていない可能性があります。②で述べたように、一文字ずつ音を確かめながら書く習慣を身につけさせましょう。

その他の練習

【くらしの中のABC】

机に向かっての勉強は、そんなに長く続けられるものではありません。例えばATMを知らないというときは、「今度、街の中で探してみてね」と声をかけるなどして、暮らしの中で自ら学び取る姿勢を養いましょう。

【ちがう文字さがし】

特に混同しやすい文字を取り上げています。tは縦棒の下部を丸めることもあるなどアルファベットの書体は様々ですが、見分けのポイントを確認しましょう。

【ローマ字の練習】

ローマ字は英語学習の妨げになることもあります。しかしプラス・マイナスを考えれば、プラスになることのほうが大きいことも確かかなようです。

いずれにしても、ローマ字は暮らしに欠かせないものとなっています。どこが似ていて、どこが違っているのかを確認しながら、ローマ字の知識を英語学習にも活かせるようにしましょう。h+it=hitを「ヒット」と読むなど音の足し算に困難を示す場合には、特にローマ字タイピングの練習が有効です。

【タイピング練習】

書くことを苦手とする子にも、タイピングでの単語練習は有効です。母音字 a/i/u/e/o のキーにシールを貼ると、語が子音と母音から成り立っていることへの気づきを促すことができます。



Unit 3 Strategies

フォニックスの基礎を身につけ、音いん操作（音の足し算・引き算）に慣れることはとても大切ですが、フォニックスには例外も多く、それだけに頼りすぎるのは問題です。

ここでは、絵と文字の両方から得られる情報を統合して単語を読む練習をします。

【練習のポイント】

- ① まずは絵を見て、それが何を表しているかを自分で考えて単語を読むようにします。
- ② 暮らしの中でよく見聞きする語とそうではない語を織り交ぜています。わからない単語は後まわしにして、わかる単語から読んでみましょう。
- ③ 英語らしい発音で、できるだけ速く読めるよう繰り返し練習しましょう。
- ④ 入門としては難易度が高い語も取り上げています。ここでは「読めること」を目標として、書く練習は無理のない範囲にとどめましょう。
- ⑤ フォニックスによる情報の積み上げ：ボトムアップ方式の読みと、場面や文脈など様々な情報を統合して読むトップダウン方式とをバランスよく練習できるようにしましょう。

【こんなときは】

- * pinch が読めないときは前後の pin / punch を参考に、kettle (ket·tle) が読めないときは同じページにある jungle (jun·gle) を参考にしましょう。

英語学習 Q & A

Q 1 何歳から始めればいいのか？

英語では読み書きに困難を示す子の割合が、日本語にくらべて高いことが知られています。その子のペースを大切にしましょう。

何より大切なのは、本人の興味や意欲です。背中に書いた文字の「あてっこ」を楽しんだり、街中でATMを見つけて読んだときには「よく気づいたね」とほめることで、少しずつ意欲を高められるようにしましょう。

Q 2 最初は耳からがいいのか？

早くから読み書きを強いるのは考えものですが、文字がわかる子には、文字情報をいっしょに示すことをお薦めします。nail は音だけ聞かせると「ネオ？ニャオ？」となってしまうがちですが、単語を見ながら聞けばより少ない練習でも上手に発音できるようになります。

Q 3 カタカナは使わないほうがいいのか？

さらに nail はただ聞かせるより「ネーではなくネイ、l は軽くウと添えて」などと発音のポイントを書き示した方が上達は早くなります。

小学高学年ともなれば多い子は1,000語以上のカタカナ語を身につけています。これを生かすためにも「カタカナ語発音とどこが違った？」などと聞きながら練習をさせてみましょう。

* P42 Quiz! を参照

NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所

TEL: 029-856-8143 FAX: 029-896-4035

〒305-0051 つくば市二の宮 1-18-1 102

info-rise@rise.gr.jp http://rise.gr.jp/

